

学生の教職志望に関する探索—その1—

中島 絹子

(平成6年9月30日受理)

A Survey of Students' Views on Teaching Profession — Part 1 —

Kinuko NAKAJIMA

(Received September 30, 1994)

はじめに

将来教職につくことを志望する学生が入学する教員養成を目的とした、いわゆる「教員養成大学」ではない大学において、学生はどのような理由で教職課程を選択履修しているのだろうか。また、教職への意識や志望度は在学中にどのように変化していくのだろうか。

1. 研究の方法

- 1) 調査対象：東京家政大学家政学部（栄養学科・服飾美術学科）4年生の教職課程履修者（履修率57.3%）のうち6月末までに教育実習を終了した学生 208名
回収率100%
：東京家政大学短期大学部（栄養科・服飾美術科）2年生の教職課程履修者（履修率15.8%）のうち6月末までに教育実習を終了した学生 102名
回収率100%
- 2) 調査日：平成6年7月1日（金）教育実習事後指導「教育実習の研究」の時間内（家政学部生）
：平成6年7月15日（金）教育実習事後指導「教育実習の研究」の時間内（短期大学部生）
- 3) 調査方法：無記名自記式質問紙法により行った。
- 4) 調査内容：調査内容は以下の通りである。¹⁾
学生生活の抱負、教職志望の生起時期、
教職志望の動機、教職志望の変化過程、

教職教養科 教育学研究室

教職志望が強化された理由、教職志望が希薄化した理由、教職に必要な資質、教職の職業的特性、卒業後の志望志向

5) 対象者の属性

① 出身高校所在地

家政学部生；東京都内27.4%，東京都隣接県45.7%
それ以外の道府県26.9%

短期大学部生；東京都内25.5%，東京都隣接県69.6%
%，それ以外の道府県4.9%

② 通学区分

家政学部生；自宅通学者68.8%，自宅外通学者31.2%
%

短期大学部生；自宅通学者75.5%，自宅外通学者24.5%
%

③ 家計支持者の職業

家政学部生；教員12.0%，自営業23.1%，公務員10.6%，会社員52.4%，その他1.9%

短期大学部生；教員2.9%，自営業21.6%，公務員20.6%，会社員52.9%，その他2.0%

④ 入学事情

家政学部生；現役84.6%，一浪12.0%，二浪1.4%，
無解答1.9%

短期大学部；現役90.2%，一浪9.8%

⑤ 入学志望度

家政学部生；第一志望63.0%，第二志望11.0%，第三志望22.6%，その他3.4%

短期大学部生；第一志望53.9%，第二志望16.7%，
第三志望22.5%，その他6.9%

⑥ 教育実習計画の概要

a) 教職課程ガイダンス

- 家政学部生 2 年次, 短期大学部生 1 年次の 4 月
- b) 教育実習受入れ校および教育委員会への依頼申請および実習校の決定
- 家政学部生 3 年次, 短期大学部生 1 年次の 4 月から翌年 2 月
- c) 教育実習事前・事後指導
- 事前指導は家政学部生 4 年次, 短期大学部生 2 年次の 4 月～5 月, 事後指導 7 月～12 月
- d) 教員採用試験課外講義
- 毎年 4 月～5 月

2) 教職志望の生起時期

表 2. 教職志望の生起時期

時 期	(%)	家政学部生	短期大学部生
1. 入学前から		54.5	56.9
2. 入学後 1 年から		19.6	26.5
3. " 2 "		5.3	2.9
4. " 3 "		9.1	-
5. " 4 "		4.3	-
6. 実習修了後から		7.2	13.7

II. 結果および考察

1) 学生生活の抱負

学生がどのような学生生活を送りたいと考えていたのであろうか。表 1 のように家政学部生（以下、学部生と称す）・短期大学部生（以下、短大生と称す）どちらの学生も「教養を身につけ、勉強に専念する」という解答が半数以上であった。

表 1. 学生生活の抱負

目 的	(%)	家政学部生	短期大学部生
1. 広い教養を身につける		32.2	21.6
2. 専攻学科の勉強に専念する		25.5	39.2
3. 学生生活を十分に楽しむ		15.4	5.9
4. 将来教職に就くために努力する		10.6	8.8
5. 社会的に自立する力をつける		9.6	18.6
6. 生涯の友人をつくる		5.3	4.9
7. その他		1.4	1.0

学部生のほうは在学期間が 4 年間あるためか、短大生に比べ、学生生活を十分に楽しみたいとする学生が多かった。また、その反対に短大生は、2 年間の在学期間を有効に使って、「社会的に自立する力をつける」を抱負とした学生が多かった。また、教職課程を選択したにもかかわらず「将来教職に就くために努力する」とした学生が 10.6%, 8.8% しかいなかったことは、教職資格も幅広い教養の中の一つと考えられているためと思われる。この点で教員養成大学に入学した学生の意識とかなり大きな差があるのではないかと思われる。

学部生・短大生ともに、「入学前から」が、学生の半数以上が教職を志望している。入学後 1 年程度で志望した者がこれに次いで多いが、これは、入学前には教職について関心を持っていなかった学生が、同級生や先輩などから情報を得、それをきっかけとして、自分も教職を志望するようになったものと思われる。

その後に、新たに教職を志望した者は少なくなるが、2 年次よりも 3 年次が多いのは、3 年次に実習校が内定し、教育実習が身近になるためと思われる。4 年次には教育実習の事前指導や教員採用試験の課外講義等が始まり、教職に就く難しさ・厳しさを感じるようになるため、この時点で、はじめて教職を志望した者は少なくなっている。

その一方で、学部生の 7.2%, 短大生の 13.7% が教育実習終了後にはじめて志望したとしているのは、教育実習が学生に強い印象を与え、教職志望についての大きな動機づけとなっているためと思われる。この意味でも、充実し、かつ、有意義な教育実習を行うことが、教職課程の中で、極めて重要な要素であることが分かる。

3) 教職志望の動機

教職志望の動機が何であったのか、23 項目の志望動機の中から、志望動機の強い順に複数解答を求めた。その結果と第一志望動機・第二志望動機とを比較したのが表 3 である。

第一動機で学部生は「教職に意義や魅力を感じるから」20.1%, 短大生は「とにかく教員の資格を取得しておきたいから」21.8% がそれぞれ最も高い。学部生・短大生とも「教職に意義や魅力を感じるから」、「教育実習を経験して感動して」、「とにかく教員の資格を取得しておき

学生の教職志望に関する深索

表3. 教職志望の動機

教 職 志 望 の 動 機	家政学部4年生			
	(%)	全体	第二	
教職に意義や魅力を感じるから	9.5	10.9	20.1	
教育実習を経験して感動して	10.6	10.4	13.9	
とにかく教員の資格を取得しておきたいから	10.9	4.9	13.4	
優れた先生に出会い尊敬して	8.8	9.9	12.7	
女性の職場として最適だと思うから	10.6	9.9	4.8	
社会的・経済的に安定しているから	10.0	10.9	6.2	
親たちや家族のものが勧めたから	5.6	5.4	5.7	
学校やクラブ活動など、楽しい学校生活を送ったので	5.6	6.9	4.3	
幼少の頃から先生にあこがれていたから	5.1	4.9	6.2	
ある先生の教科に引かれて、その教科の先生を目指した	3.7	4.5	3.3	
教職関係の授業を受けたことで	3.5	5.9	0.5	
友人や周囲のもの影響	2.2	4.5	0.5	
父母が教師で、親戚にも教師がいること	2.1	2.0	1.4	
家庭教師や塾の教師の経験によって	1.8	1.0	1.0	
その他の社会的経験によって	1.7	1.5	1.4	
子育てに役立つと思ったから	1.7	2.0	0.0	
先生が勧めた	1.3	1.0	0.5	
一般の企業の就職が難しいから	1.3	1.0	0.5	
先生に反発し、子供たちのために優れた先生に成ろうと目指した	1.1	1.5	1.0	
母校やその他の学校のクラブ活動や青少年活動の指導経験から	0.9	0.0	0.0	
家庭の事情や自己の希望などで郷里に帰りたいから	0.7	0.0	0.5	
教育に関する書物を読んでから	0.5	0.5	0.5	
その他	0.6	0.5	1.4	

■ 第一
 第二
 □ 全体

教 職 志 望 の 動 機	短期大学部2年生			
	(%)	全体	第二	
教職に意義や魅力を感じるから	8.7	10.3	10.3	
教育実習を経験して感動して	10.6	10.3	18.8	
とにかく教員の資格を取得しておきたいから	17.7	14.3	21.8	
優れた先生に出会い尊敬して	9.5	9.3	15.8	
女性の職場として最適だと思うから	4.1	5.2	1.0	
社会的・経済的に安定しているから	6.0	6.2	3.9	
親たちや家族のものが勧めたから	6.3	5.2	6.9	
学校やクラブ活動など、楽しい学校生活を送ったので	6.0	6.2	3.0	
幼少の頃から先生にあこがれていたから	5.7	5.2	6.9	
ある先生の教科に引かれて、その教科の先生を目指した	2.7	3.1	2.0	
教職関係の授業を受けたことで	4.4	1.0	1.0	
友人や周囲のもの影響	2.5	4.1	2.0	
父母が教師で、親戚にも教師がいること	2.7	5.2	0.0	
家庭教師や塾の教師の経験によって	0.5	1.0	0.0	
その他の社会的経験によって	2.2	2.1	2.0	
子育てに役立つと思ったから	1.9	0.0	1.0	
先生が勧めた	1.4	2.1	0.0	
一般の企業の就職が難しいから	0.8	1.0	0.0	
先生に反発し、子供たちのために優れた先生に成ろうと目指した	2.2	6.2	2.0	
母校やその他の学校のクラブ活動や青少年活動の指導経験から	1.4	1.0	0.0	
家庭の事情や自己の希望などで郷里に帰りたいから	0.0	0.0	0.0	
教育に関する書物を読んでから	1.6	0.0	0.0	
その他	1.1	1.0	3.0	

■ 第一
 第二
 □ 全体

たいから」、「優れた先生に会い尊敬して」、「社会的・経済的に安定しているから」が、比率のちがいはあっても第一動機のベスト5である。これは、教職を志望している学生が、単なる雰囲気や成り行きによって教職課程を選択したのではなく、現実を見据え、また、その意義や価値を十分に考えた上で、教職志望に至ったことを示していると思われる。

第二動機は、第一動機のベスト5のうち「とにかく教員の資格を取得しておきたいから」に代わり、「女性の職場として最適だと思うから」(学部生)「学校やクラブ活動など、楽しい学校生活を送ったので」(短大生)がそれぞれ入り、第二動機のベスト5となっている。

次に、志望動機複数解答についてみると、「ともかく教員の資格を取得しておきたいから」が学部生10.9%、短大生17.7%と両方とも一番多い。短大生は学生生活の抱負の調査でも、「社会的に自立する力をつける」という項目が学部生に比べ9%ほど多かったことを考えても、自立したいという意識が強うかがえる。

逆に、教職として就職することは考えず、単なる「嫁入り道具」の一つとして教員の資格を取得しておきたいと考えている学生もこの項目に含まれている。しかし、後述の「教職志望の変化過程」において、教職志望の度合いが学年が進むにつれて強くなったとするものが約70%に達していることから、はじめは曖昧な動機であった者も、教職課程を履修していく中で、教員への就職を前提とした具体的な動機を固めていく様子が窺われる。

次に、「教育実習を経験して感動して」というのが、両方とも10.6%であった。前述2)の分析とも関連するが、教育実習を経験することで、自分の知識を、自分の考えた方法で、実際に生徒に教えていくことによってよろこびを知り、また、授業以外の生徒との触れ合いから得た感動によって、教師になりたいという意志を固める学生も多い。

次に、過去の経験や思い出が志望の理由になっているものを見てみたい。

「教職に意義や魅力を感じるから」(学部生9.5%、短大生8.7%)、「優れた先生に会い尊敬して」(学部生8.8%、短大生9.5%)、「幼少の頃から先生にあこがれていた」(学部生5.1%、短大生5.7%)等の、通常職業を選ぶ上で強い動機になりやすい事項が、複数解答でありながら、いずれも一桁の結果であるのは、以外に思われる。

また、「学校やクラブ活動など、楽しい学校生活を送

たので」という項目も学部生5.6%、短大生6.0%と少ない解答に終わっている。

これは、高等学校以下の学校生活において、教師と生徒との信頼関係の醸成が不十分であったか、あるいは、受験本位の教育の中で「楽しい学校生活」が送れなかった者が多かったことを示しているものと考えられる。

また、同時に、職業を選択する際に思い出やあこがれといった情緒的な要素よりも、現実的な計算や判断が強くと働いている面も否定できない。

「女性の職場として最適だと思うから」(学部生10.6%、短大生4.1%)、「社会的・経済的に安定しているから」(学部生10.0%、短大生6.0%)については、学部生に比べ、短大生のほうがやや少ない。これは学部生のほうが、年齢的に2歳は上ということもあり、就職後に直面する現実的なこと、つまり結婚・出産を身近な問題として、とらえているためではないだろうか。産前産後休暇や育児休暇の取得が定着し、社会保険等も整っている。また、一般企業よりは、結婚や出産によって退職を要求されることも少ないのではないかとと思われる。これは、女性にとって大きな魅力であるし、男女間の職務内容や賃金・地位が同一であることなども、学生の意識に大きな影響を与えていると思われる。このようなことから、学部生の方が、生涯の職業として考えているのではないだろうか。

4) 教職志望の変化の過程

家政学部4年間、短期大学部2年間において、(詳しくは、教育実習終了後までに)教職志望の程度はどのように変化していったか見てみたい。

表4. 教職志望の変化の過程

教職志望の変化 (％)	家政学部生	短期大学部生
1. はじめは強かったが、後に更に強くなった	23.6	14.6
2. はじめは弱かったが、後に強くなった	43.7	51.4
3. はじめは強かったが、後に弱くなった	20.7	17.5
4. はじめから弱く、その後も強くなかった	12.0	16.5

学生の教職志望に関する深索

教職志望の変化で、もっとも多かったのが、学部生・短大生とも「はじめは弱かったが、後に強くなった」で学部生は4割り、短大生は半数が該当している。「はじめは強かったが、更に強くなった」と「はじめは弱かったが、後に強くなった」は学部生で67.3%、短大生で66.6%となっている。これは、教職課程履修者の7割近い学生が、学年が上がるにつれて教職志望が強くなったことを示している。

逆に「はじめは強かったが、後に弱くなった」は、学部生で20.0%、短大生で17.5%、「はじめから弱く、その後も強くならなかった」は学部生で12.0%、短大生で16.5%であった。

5) 教職志望度の変更理由

この教職志望が強くなったり弱くなったりする理由は、どんなところにあるのであろうか。まず、教職志望が強くなった理由は表5の通りである。

表5. 教職志望が強化された理由

教職志望が強化された理由 (％)	家政学部生	短期大学部生
1. 教育実習で教職にやりがいを感じたから	52.9	76.0
2. 大学の授業を通して、教職への理解が深まったから	22.9	8.5
3. 教職が自分の性格にあっていてよかったから	16.7	8.5
4. 他の職業へ就職する方がむずかしそうだから	2.6	1.4
5. 今の教育の現状を何とかしたいと思ったから	1.9	4.2
6. まわりの人がみんな教職を志望しているから	0.6	0.0
7. その他	3.3	1.4

教職志望が強まった理由は、「教育実習で教職にやりがいを感じたから」が最も多く、学部生で52.3%、短大生では76.0%が、教育実習を経験したことで教職にやりがいを感じたとしている。

学部生の第二の理由は、「大学の授業を通して、教職への理解が深まった」としているが22.9%いるが、短大生では、8.5%で学部生に比べるとやや少ない。第三は、「教職が自分の性格に合っているとよかったから」であった。

学生は教育実習を通じて、抽象的な知識を具体化し、また、教職に対するイメージをより明確にしていく。その結果が、この数字になって現れているものと考えられる。

次に教職志望が弱まった理由は、表6の通りである。

表6. 教職志望が希薄化した理由

教職志望が希薄化した理由 (％)	家政学部生	短期大学部生
1. 教職は自分の性格に合っていないとわかったから	37.8	41.0
2. 教育実習で教職につき自信をなくしたから	13.4	23.1
3. 大学の授業をうけても教育の興味がわかなかったから	8.5	12.8
4. 今の教育現場の様子に失望したから	7.3	2.6
5. 他の職業へ就職する方が簡単そうだから	3.7	12.8
6. 教職志望の仲間に見合えなかったから	2.4	5.1
7. その他	26.8	7.7

教職志望が弱まった理由の第一として、学部生37.8%、短大生41.0%、ほぼ4割の学生が「教職は自分の性格に合っていないとわかったから」をあげている。第二の理由として、学部生13.4%、短大生23.1%が「教育実習で教職につき自信をなくしたから」をあげている。

教育実習を経験することで、生徒や先生と素晴らしい出会いがあり、感動体験ややりがいを感じる学生がいる反面、今まで、頭で考えていただけの教師像・学校生活を実際に、目の当たりに見たり、聞いたりし、学生自身が生徒であった時にはわからなかったこと、授業以外の事務、教師間の人間関係、また、実際に教壇に立って授業をしてみても力のなさを痛感することにより、教職につき自信を無くしたものと思われる。「他の職業へ就職する方が簡単そうだから」という理由が学部生3.7%であるのに比べ、短大生が12.8%とやや多い。

以上は、今回調査した教職課程を履修している全員の学生についての結果であったが、入学前から教職を志望していた学生は、入学後に教職志望が生じた学生と意識にちがいがあるのであろうか。

6) 教職志望動機と教職志望の変化

入学前から教職を志望していた学部生は全体の54.5%で、そのうち、69.3%が入学試験の際、本学を第一志望としていた。短大生では、56.9%が入学前から教職を志望し、そのうち、56.9%が本学を第一志望としていた。

この入学前から教職を志望していた学生たちの志望動機の上位9項目をあげると次の表7の通りである。

表7. 入学以前の教職志望者の教職志望動機

入学以前の教職志望者の動機 (％)	家政学部生	短期大学部生
1. 教職に意義や魅力を感じるから	19.5	15.5
2. 優れた先生に出会い尊敬して	15.0	19.0
3. 教育実習を経験して感動して	12.4	10.3
4. とにかく教員の資格を取得しておきたいから	10.6	20.7
5. 幼少のときから先生にあこがれていたから	10.6	13.8
6. 社会的・経済的に安定しているから	7.1	5.2
7. 女性の職場として最適だと思うから	6.2	0.0
8. 親たちや家族のものが勧めたから	5.3	5.2
9. 学校やクラブ活動など、楽しい学校生活を送ったので	2.6	5.1

入学以前から教職を志望していた学生の志望動機のトップは、「教職に意義や魅力を感じるから」であった。

また、「優れた先生に出会い尊敬して」と「教育実習を経験して感動して」を合計すると学部生・短大生とも約45%前後の学生が教育のいとなみそのものに志望動機を求めている。これは、全体の結果と比較すると大きなちがいである。

また、短大生は「とにかく教員の資格を取得しておきたいから」が20.7%と全体の結果を上回り、資格取得が志望動機の第一理由であるところは、全体の結果と同じ傾向である。

教職志望動機はどのように変わっていったか、全体の結果と比較したのが、表8である。

表8. 入学以前の教職志望者の教職志望の変化

入学以前の教職志望者の教職志望の変化 (％)	学部入学前から	学部生全体	短大入学前から	短大生全体
1. はじめは強かったが、後に更に強くなった	40.4	23.6	27.6	14.6
2. は弱かったが、後に強くなった	29.8	43.7	41.4	51.4
3. は強かったが、後に弱くなった	21.9	20.7	24.1	17.5
4. はじめから弱く、その後も強くならなかった	7.9	12.0	6.9	16.5

学部生、短大生とも入学前から教職志望があった学生は、志望度が強い。また、教職志望度が強くなった比率も全体に比べると若干高い。このことは、「はじめから弱く、その後も強くならなかった」の比率が低いことから裏づけられる。しかし、当初志望度が強かったにも

かわらず、弱くなった比率は全体の結果よりも高い。

7) 教職志望が強化された理由と希薄化した理由

教職志望が強化された理由は何か、全体の結果と比較したのが、表9である。

表9. 入学以前の教職志望者の教職志望が強化された理由

入学以前の教職志望者の教職志望が強化された理由 (％)	学部入学前から	学部生全体	短大入学前から	短大生全体
1. 教育実習でやりがいを感じたから	59.5	52.9	85.0	76.0
2. 教職が自分の性格に合っているとわかったから	16.7	16.7	7.5	8.5
3. 大学の授業を通して、教職への理解が深まったから	14.3	22.9	7.5	8.5
4. 今の教育の現状を何とかしたいと思ったから	2.4	1.9	0.0	4.2
5. まわりの人がみんな教職を志望しているから	1.2	0.6	0.0	0.0
6. 他の職業へ就職する方がむずかしそうだから	1.2	2.6	0.0	1.4
7. その他	4.7	3.3	0.0	1.4

学生の教職志望に関する深索

教職志望が強化された理由は、学部生、短大生ともた。教職志望が希薄化した理由は何か、全体の結果と比較したのが、表10である。

表10. 入学以前の教職志望者の教職志望が希薄化した理由

入学以前の教職志望者の教職志望が希薄化した理由 (%)	学部入学前から	学部生全体	短大入学前から	短大生全体
1. 教職は自分の性格に合っていないとわかったから	33.3	37.8	22.2	41.0
2. 大学の授業を受けても、教育の興味がわかなかったから	10.0	8.5	11.1	12.8
3. 教育実習で教職につく自信をなくしたから	10.0	13.4	38.9	23.1
4. 今の教育現場の様子に失望したから	6.7	7.3	0.0	2.6
5. 他の職業へ就職の方が簡単そうだから	6.7	3.7	22.2	12.8
6. 教職志望の仲間に同調できなかったから	0.0	2.4	0.0	5.1
7. その他	33.3	26.8	5.6	7.7

希薄化した理由については、学部生には大きな差はみられないが、短大生は「教育実習で教職につく自信をなくしたから」「他の職業へ就職の方が簡単そうだから」の両項目で61.2%を占め教職のむずかしさ、就職の厳しさを実感したことが志望を弱めた大きな理由と考えられる。

8) 教職はどんな資質を必要とする職業か

望ましい教員の資質とは何であるか、現行の法制では免許主義であり、一定の単位を取得するという条件を

表11. 教職はどんな資質を必要とする職業か

教職はどんな資質を必要とする職業だと思うか (%)	大いに	たいそう	どちらとも	あまりそうは	決してそうは
	そう思う	そう思う	いいない	思わない	思わない
1. 高度の専門的知識を要する	49.1	39.6	4.5	6.6	0.2
2. 強い使命感を必要とする	38.0	38.4	18.7	3.9	1.0
3. 人の手本となれる人格を求められる	36.9	41.2	15.8	5.1	1.0
4. 体が丈夫でないと働まらない	69.3	22.7	5.3	2.2	0.5
5. 勤勉であれば誰でも勤まる	2.4	4.6	17.5	42.2	33.3
6. 自分の考えで仕事を進められる	7.3	18.5	33.6	31.6	9.0
7. 経験をつんでコツを体得してゆく	59.5	35.9	3.6	1.0	0.0
8. 予め定められた規則に従って仕事する	4.9	32.1	41.8	13.9	7.3
9. 旺盛な研究心を必要とする	56.7	32.4	6.8	3.9	0.2
10. 生徒の面倒をみるサービス精神のいる	31.9	41.3	18.6	6.5	1.7
11. 天性の人柄の魅力で勝負する	19.9	41.1	33.5	5.0	0.5

満たせば、教員免許状が授与される。知的条件・知的資質さえ備われば誰でも教師になることができる。しかし、それだけでは、教師として十分とは言えない。魅力ある人格、教育者として人を導く、あるいは、引きつける側面がなければ、教師として万全とは言えないであろう。教師の人格的資質は、その人の知的資質（知識・技能）と同様に、教育上極めて重要な要素であると思われる。

学生は、教職をどのような資質を必要とする職業だと思っているのであろうか。

学部生・短大生の全体で集計したのが表11である。

「高度の専門的知識を必要とする」に「そう思う（大いに・たいそう）」と解答したものは、88.7%であった。9割近い学生が、一般教養的知識では教職は務まらないと考えており、また、専門的知識も日進月歩である以上、かなりの情熱をもってその取得に取り組まなければならないと考えている。（「旺盛な研究心を必要とする」に「そう思う（大いに・たいそう）」と解答した者が89.1%に上がっている）。

「体が丈夫でないといつとまらない」のところでは、「そう思う（大いに・たいそう）」92.0%であった。これは教育実習を経験しての実感と推察される。

「経験をつんでコツを体得してゆく」では「そう思う（大いに・たいそう）」95.4%であった。在学中に必要な技能をすべて修得して、現場に出たらすぐに一人前の教師として活躍するというよりも、長い教員生活の間に経験を重ねていけばよいと、学生の大部分が考えているのではないかと推察される。経験によって補われる部分が多いことは事実であるが、年齢が若くとも父母等は一人

前の専門家として期待していることも否定できない。大学で確実に身をつけておくべきもの、経験によって補われていくものを明確に区別し、学生に示すことが、教職課程のプログラムを組む上からは、必要なことと思われる。

「人の手本となれる人格を求められる」について、「そう思う（大いに・たいそう）」78.1%であった。人格の形成は、大学のような教育機関のみがなし得るものではないし、また、一生涯を通じて形成していくものではあるが、上述の経験の場合と同様に、たとえ大学卒業直後の若年者であっても、父母たちは、教育者としての人格を要求しているし、また、かかる人格を備えずしては生徒を指導することはできない。この点でも、教職に必要な人格とは何かという目標の明確化と、これを身につけるためにはどうすべきかという方法論を、大学の若い年次から学生に示し、それぞれの努力を求めることが必要と思われる。

知・徳・体のうち、徳育はイデオロギーの問題もあって、従来は看過されがちであったが、職業人としての教職に求められている（と学生も思っている）以上、これに対する材料を提供することは大学にとって重要な任務であると考えらる。

「生徒の面倒をみるサービス精神のいる」では、「大いに・たいそう）」73.2%であった。客観的知識（情報）・技能（問題解決のやり方）を教えるだけであるならば、塾や各種学校の講師と同じであるから、それ以外の人間関係（師弟のふれあい等）が重要な要素となってくる。時間になると帰ってしまうサラリーマン的教師では困る

表12. 教職の職業的特性

教職の職業的特性 (%)		とても	やや	中間	やや	とても	
1. 収入	多い	4.2	18.6	45.0	26.3	5.9	少ない
2. 社会的評価	高い	28.4	49.9	14.6	6.1	1.0	低い
3. 仕事の難易度	難しい	51.6	34.5	10.7	3.2	0.0	やさしい
4. 仕事の強度	きつい	35.7	49.6	12.0	2.4	0.3	らく
5. 仕事の内容	面白い	50.1	32.2	14.8	1.7	1.2	つまらない
6. 仕事のしかた	自由	6.6	37.6	40.0	12.9	2.9	不自由
7. 社会的意義	大きい	59.2	31.3	7.7	1.3	0.5	小さい
8. 職業としての安定度	安定	70.5	24.0	5.2	0.3	0.0	不安定
9. 昇進の見通し	明るい	2.0	12.7	55.8	22.4	7.1	くらい
10. 職場の雰囲気	よい	10.3	32.1	45.3	9.8	2.5	わるい

と学生も考えている。「勤勉であれば誰でも勤まる」について、「そうは思わない(あまり・決して)」が75.5%となったことを考察すると、教師とは勤勉であれば誰でも勤まるものではなく、知的資質と人格的資質の両方が必要であると学生が考えていることがわかる。これは、「強い使命感を必要とする」について「そう思う(大いに・たいそう)」が76.4%となっていることでも裏打ちしている。

9) 教職の職業的特性

表12は、教職の職業的特性についての結果である。(学部生・短大生全体の平均)

教職は職業としての安定度はとても高いと考えられている(70.5%が「とても安定している」、24.0%が「やや安定」)。また社会的意義は大きく、仕事の内容も面白いが、仕事の難易度は難しいとも意識されている。収入・仕事のしかた・昇進の見通し・職場の雰囲気については、特に良いとも悪いとも考えられていない。

10) 卒業後の志望志向

教員採用試験と一般企業就職試験を受ける学生についての結果である。

表13. 卒業後の志望方向

卒業後の志望志向 (%)	家政学部生	短期大学部生
1. 教員採用試験のみ	37.7	20.6
2. 教員採用試験と一般企業就職試験両方	33.6	20.6
3. 一般企業就職試験のみ	21.1	47.0
4. 両方受けない	7.5	11.8

教員採用試験を受ける学生は、一般企業の就職試験も受ける者も含め学部生71.3%、短大生41.2%であった。両方受けない学生の大半は、一般の公務員採用試験を受けるものと思われる。また、今年度、教員採用試験を受けない学生の中には、今年1年間受験勉強をし、来年の教員採用試験を受ける学生が多く、特に短大生の中に目立っている。大学へ編入したり、大学院へ進む学生も数名いる。

次に、入学前から教職を志望していた学生に絞って、教員採用試験について調べた結果は表14の通りである。

表14. 入学以前の教職志望者の卒業後の志望志向

入学以前の教職志望者の卒業後の志望志向 (%)	家政学部生	短期大学部生
1. 教員採用試験のみ	43.9	24.1
2. 教員採用試験と一般企業就職試験両方	30.7	27.6
3. 一般企業就職試験のみ	18.4	37.9
4. 両方とも受けない	18.4	10.3

入学前から教職を志望していた学生の教員採用試験の受験率は、学部生43.9%、短大生24.1%で、教員採用試験と一般企業の就職試験の両方を受ける学生は、学部生74.6%、短大生51.7%であった。このことからみて、入学前から教職を志望していた学生の方が、全体の学生の平均より教員採用試験受験者が、やや多いということがわかる。

III. まとめ

1. 教職志望について、教職課程を履修する半数以上の学生が、入学以前に教職を志望している。
2. 教職志望動機として、過去に優れた教師に出会い、教職に意義や魅力を感じたとしている学生が多い。

また、教育実習や大学の授業を通して教職への理解が深まった学生が8割いる。特に教育実習を経験することが、教職志望を強化する大きな要因であることがわかった。

このことからみても、教育実習を4年生で行う前に(3年生の段階)、見学を主とする観察参加を1週間程度体験する時間があった方が、より教職に対する理解が深まり、4年生の教育実習がより成果があがると思われる。

教育実習を経験し、教職に就きたいと思っても、4年次の教育実習修了の時期には、ほとんどの教員採用試験の受験応募期間は終了している。また、教員採用試験の試験勉強を始めるには時間が少ない。教職が自分に合っているかどうか、また、実際の教育現場を理解する上においても、観察参加の時間は必要と思われる。

さらに、教育実習を経験することにより教職は自分の性格に合っていないとわかった学生が少なくないことをみても、早い時期に進路を変更することが、学生にとっても有利と思われる。

参考文献

3. 教育実習の受入れ校によって、学生の教職に対する考えが変わる。受入れ校で有意義で充実した実習が出来た学生は教職志望を強くするが、受入れ校が、実習生を引き受けることに消極的な学校や、教職員同士に問題のある学校など、後輩の育成に非協力的な場合、学生は教職志望を弱くすることが、実習日誌からも伺える。
4. 教職課程を履修した学生は、必要な単位を取得し、教員採用試験に合格すれば、教職に就くことが出来る。ここで問題としたいのは、この学生には、知的資質は十分備わっているが、人格的資質はどの程度備わっているかわからないことである。教員採用試験には、面接もあるが、短い時間でどれだけ的人格の資質が判別できるか、不安な面もある。一日中、児童と関わっている小学校教諭の場合、教師の人格的資質の重要性をより強く感じるが、中学校・高等学校においても、同様である。そのためにも、学生のうちに何らかの診断基準（自ら適格性を判断出来る機会）のようなものを行う必要があるのではないだろうか。

おわりに

今回は、教育実習を修了した学生を対象に調査したが、教育実習を行う前と修了後とでは、教職志望・教職観に変化があるということをもみても、教育実習が与える影響というものがいかにおおきいかがわかる。その教育実習を充実させるためには、知識や技術だけでなく真に教育者として必要な人間形成を行う機会を作っていかなければならないと思う。

この調査を一定年数継続して行い、その推移を検討することとしたい。また、社会情勢によって、調査項目別の解答の割合が推移するかについても、調査研究を行い、問題点があれば解決していきたい。

注

- 1) 調査項目は、以下の文献から引用した。
 *松本良夫・生駒俊樹；「教員養成大学」学生の進路志望と教職観：東京学芸大学紀要，1984，1部門，35，P63～75
 *大庭茂美；短期大学における「教職課程教育」の評価をめぐって（第4・5）－短大卒小・中学校教員と短大教職員の意識調査から考える－：教師教育研究，1994，第7号，P95～111

- (1) 津留宏；教員養成論：1978，有斐閣新書
 (2) 菊池一美；教育実習生調査：岩手大学教育学部研究年報，1968，22巻，1月号
 (3) 河野勇；教育科学科の教育実習の概要と問題——実習のカリキュラム構成とその実践の報告：神戸大学教育学部研究集録，1967，37集，3月号
 (4) 三好信浩；アメリカとの比較においてみたわが国の教育実習の課題：茨城大学教育学部紀要，1969，18号，3月号

【Summary】

The objective: My evaluation of acquirements through the student-teaching practice and my tentative proposal so as to achieve more substantial teaching practice.

In order to grope for what the educational guidance of teaching profession should be, I handed out questionnaires to senior students of our university and junior college, who completed their student-teaching practices, and surveyed their vocational perspective and their views on teaching profession in consideration of the fact that our university and junior college are not the training schools for teachers.

The following are observed after analyzing responses from them.

- 1) More than half of the students had some interests in teaching before entering into the university and the junior college.
- 2) Motivation to be a professional teacher has been reinforced by the acquired experiences through the student-teaching practice.
- 3) Natures necessary for teachers and the image of the teacher.
 - a) Healthy body
 - b) Energetic spirit of inquiry
 - c) The most advanced professional knowledge and techniques of education
 - d) Devoted attitude/a sense of duty
 - e) Respectable personality

- f) Exemplary conducts
- g) Kindly and helpful attitude toward students
- 4) Vocational characteristics of teaching profession
 - a) Teaching is very attractive and meaningful but very tough and difficult.
 - b) Professional teachers have established reputation and they are also socially and economically stable.

The experience acquired by student-teaching practice has contributed greatly to realization of each student's image of teaching profession and made students more enthusiastic than ever in teaching.

In view of the decisive influence of these practices to students' motivation to be teachers, it is taken as a matter of course that the student-teaching practice should be well-prepared and fully substantial.

As one of approaches to the above mentioned task, I would like to suggest that a preliminary practice including mainly on-the-spot observation and detailed arrangements with the help of a cooperating teacher of a laboratory should be incorporated

into the teaching practice programs before the year of execution of the main practice at senior grade. If it is practicable, the student teachers will be able to cope with the coming student-teaching practice with unwavering confidence.

With regard to the nature necessary for teaching profession, most of students indicated character in my survey but it seems that no curriculum for building character is adopted in present university/college education; therefore the necessity of some programs for cultivation of character in the comprehensive university educations will be worth studying.

As the most of students, who succeeded in their student-teaching practices, will enter the teaching profession immediately after graduation from the university/college, they should be trained as a teacher who is able to stand on her own feet while they are in the university/college. I think that the above mentioned requirement might be met if the whole programs of course for the teaching profession, especially the student-teaching practice program were reviewed in line with my suggestion.